

# 中部運局/事故防止セミナー 健康管理の理解深める 管内5県から多数参加

【愛知】中部運輸局は3日、名古屋市で自動車事故防止セミナーを開き、管内5県からトラックやタクシー、バスなど多くの事業者が参加した。



講演後、パネルディスカッション

とともに同様の事故に対する懸念が高まり、健康管理マニュアルを改定した。セ

江角直樹次長が「国土交通省では、2007年から健康起因による事故防止対策を行っているもの、現在はソフト、ハード両面での対応が進んできた。4月には、ドライバーの高齢化

セミナーを通してドライバーの健康管理への理解を深め、適切な対処法の一助として役立ててもらいたい」とあいさつした。

国交省自動車局の小林豊安全政策課長が、事故の実例を基に「ドライバーの健康管理について解説。続いて、

NPO(非営利活動法人)ヘルスケアネットワークの作本貞子副理事長は、実例から検討する健康起因事故防止策を紹介した。

埼玉医科大学神経内科学の荒木信夫教授も「運転障害における脳・神経疾患の位置付け」について話した。

日野自動車技術研究所の榎本英彦所長は、先進安全システムによる運転支援の取り組みを披露。

講演後、作本氏をコーディネーターに、「ソフト、ハード両面による健康管理と対処の充実」をテーマにパネルディスカッション。

名鉄バス(小池潤社長、名古屋市中村区)の堀江次郎管理部長、名鉄岡崎タクシー(河口恒徳社長、愛知県岡崎市)の伊藤僚一相談役、日本梱包運輸倉庫の川崎秀樹勤務部長が、登壇して意見を交えた。

(梅本誠治)